

東海大学同窓会マスタープラン 活動の指針・キャッチフレーズ・策定の推移

キャッチフレーズ

未来へつなぐ東海魂

Link the Spirit of Tokai to the Future

活動の指針

- (1) 会員のために、時代や世代と合致した、さまざまな「集いの場」を創出します。
- (2) 東海大学の発展のために、母校の情報を発信、共有し、学び舎の環境整備に協力します。
- (3) 学生の成長のために、教育研究活動、課外活動、就職活動などを応援します。
- (4) 建学の理想を高く掲げ、地域に積極的に参画し、社会の「礎」として未来を建設します。

マスタープラン

東海大学同窓会は、会員相互の親睦交流と社会活動の向上を図り、あわせて母校の発展に寄与すると同時に、学生の成長を応援し、「建学の理想」を高く掲げ、平和な世界の実現を目指します。そのために、支部ならびに学部学科同窓会、その他の同窓会組織の活性化を図り、組織の健全な運営に努め、多様性のある企画を立案、遂行し、安全で即時性の高い情報発信を実現することで、未来永劫に発展しうる同窓会組織となることを目指します。

■東海大学同窓会「マスタープラン」とは

「マスタープラン」は会則第1章に定める会の「目的」を再確認して理解を深め、「大学の同窓会」としての存在意義を熟考し、本会の「あるべき姿」を構築した上で、それを具現化するための、東海大学同窓会の将来に向けた活動の指針を成文化したものです。

■「目的」の再確認と理解の深化

本会の「目的」は「会員相互の親睦交流と社会活動の向上を図り、あわせて母校の発展に寄与すること」です。

しかしながら、個人と組織の発展を希求するのみが本会の「目的」ではないと指摘する議論の声が数多くありました。本会は東海大学の「建学の理想」を学んだ同志の集まりであり、「建学の理想」の具現化に努めることも「目的」であるとの考えから、「調和のとれた文明社会を構築する」という「建学の理想」を希求することも本会の「目的」として認識するべきだと結論に至りました。

■「大学の同窓会」としての存在意義について

大規模に組織化された本会（大学の同窓会）では、一般的な「クラス会同窓会」とは異なった意義付けをして、参加へのモチベーションを高め、帰属意識を醸成する必要があります。

また、スケールメリットを活かす一方で、運営責任を自覚し、「建学の理想」の具現化に努めるという「目的」を共有した上で、公共性・社会性の高い活動にも視野を広げる必要があります。

従来一般的な同窓会の活動意義と合わせて、上記のことを「大学の同窓会」としての存在意義として認識したいと考え、それを本会の「あるべき姿」としたいと議論を進め、以下のように整理しました。

■東海大学同窓会の「あるべき姿」について

- 会員が、誇りに思える、公正で公共性の高い組織
- 会員が、気軽に参加できる、自由で開かれた組織
- 会員が、安らぎを感じられる、母校と深く連携した組織
- 会員が、やりがいを感じられる、明確なビジョンを掲げた組織

■「活動の指針」の策定

ここまでの議論を踏まえ、同窓会はこの「あるべき姿」を構築するために、具体的にどのような活動を推進するべきか。それを示すことが「活動の指針」の策定です。具体的な「活動の指針」は、創立者・松前重義博士が学生に与えた4つの言葉にならない、私たちが4つの「柱」を立てて、その思いを未来に託したいと考えました。

- (1) 会員（自分たち）のために、なすべきことを成す。
- (2) 母校（東海大学）のために、なすべきことを成す。
- (3) 学生（後輩）のために、なすべきことを成す。
- (4) 社会（人類）のために、なすべきことを成す。

この「柱」を具体的な「行動」に翻案したものを、冒頭に記した「活動の指針」といたしました。

■「マスタープラン」の策定

そして「マスタープラン」は、ここまでの議論と、それによる「活動の指針」を包括して成文化したものです。

■東海大学同窓会の「キャッチフレーズ」の策定

「キャッチフレーズ」は、「マスタープラン」と「活動の指針」で提示した同窓会の理想を「未来へつなぐたい」という気持ちから、会員の皆さまに本会の理想を強いインパクトでお伝えし、共有するために、皆さまから応募のあった数多くのキーワードの中から「東海魂」を選択し、英文を併記して制定したものです。

同窓会員をはじめとする学園関係者、社会の皆さまに広くお伝えし、実効性のあるものにするために、同窓会活動の折々で活用し、浸透させていただきたいと思っております。アイデアをお寄せいただいた多くの会員の皆さまにこの場をお借りして御礼を申し上げます。